八勢目鑑橋が復旧―林田能寛祭

記念に植樹された山桜

4月4日、32回目の林田能寛祭（林田能寛顕彰会・竹内昭剛会長）が開催されました。御船町の五人の先哲の一人である林田能寛は、熊本と宮崎を結ぶ日向往還の難所・八勢川に堅固な橋を造るため、私財を投じ、1855（安政2）年3月に八勢目鑑橋を完成させました。八勢目鑑橋は、熊本地震で被災しましたが、今年の3月に修復が完了しました。竹内会長は「たくさんの人たちの協力で復旧できました。これからも子や孫に語り継いでいきたいです」と話しました。八勢目鑑橋で再び笑顔が戻った瞬間でした。

黄色い傘で交通事故を防止！

4月5日、御船地区交通安全協会と御船地区安全運転管理者等協議会から、御船署管内4町17校の新入学児童765人へ黄色い傘が贈呈されました。黄色い傘は、雨の日の交通安全に対する意識を持ってもらい、ドライバーから認識してもらうために新1年生へ毎年贈られており、平成10年に始まったこの取り組みは今年で21回目。代表して受け取った木倉小学校1年生の吉田泰雅くんと石田光さんが「これからも交通事故に遭わないようにします」と宣言しました。

贈呈された石田光さん（左）、吉田泰雅くん（右）

足水公民館落成式

地域のよりどころ、ここに復活！

4月7日、木倉の足水区（河地友好区長）で足水公民館の落成式が行われました。昭和60年に建設された足水公民館は、周りを一望でき、横には矢形川が流れている高台にあり、秋祭りや猿田彦祭りなどで人が集まる地域の集いの場でした。しかし、熊本地震で被災し、その場所での再建が難しくなったことから、足水区の中心部に場所を移し、町の補助や地元の負担金でその再建に至りました。河地区長は「地域のみんながふれあう場所として、これからも永く使ってもらいたい」と話しました。

吉無田で春の訪れを感じながら

4月8日、吉無田高原で春のフットパスが開催されました。特定非営利活動法人愛郷吉無田（渡邉秀和理事長）が主催し、約100人が参加。参加者たちは、吉無田の自然の中を歩き、ガイドの説明を聞きながら、春の訪れを感じました。昼食は、揚げたての山菜天ぷらや焼きたてのジビエ料理を食べ、吉無田を満喫しました。facebookを見て初めて参加した熊本市の有川さんは「自然豊かな吉無田を歩いてみたかった。山菜も美味しいし、楽しかった。また参加したい」と笑顔で話しました。

吉無田を満喫する参加者たち

熊本地震から2年～第2回復興祭

パネルディスカッションで話す野﨑こころさん（御船中）

4月8日、熊本地震から2年―オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト（福味総一郎会長）による第2回復興祭が開催されました。震災の記憶継承などを目的とし、阪神淡路大震災を経験した宮定章氏の講話やふりかけ総選挙では、納豆ふりかけをベースに5種類の味で総選挙。僅差でわさび風味の納豆ふりかけの商品化が決定しました。4月末から町内店舗や鶴屋・フーディーワン各店で販売されています。午後の部は、「震災から3年目に思うこと」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。パネリストとして参加した御船中学校生徒会長の野﨑こころさんは「地域のつながりを感じた。震災の経験はマイナス面だけでなく、プラスの面がたくさんあり、大切なことに気付くことができた」と震災で学んだことを力強く話しました。

嘱託区再編～水越中央区誕生！

4月8日、嘱託区再編事業に伴い、水越の町区・粒麦区・田畑区が設立総会で承認を受け、水越中央区（竹下紀一区長）が誕生しました。当事業は、昨年7月から、町区・粒麦区・田畑区の住民で組織する、まちづくり協議会を立ち上げ、5年後、10年後を見据えた区のあり方について、協議を重ねてきました。また、粒麦区と田畑区に区内調整員をそれぞれ配置することで、地域の集落機能が維持できることが期待できます。竹下区長は「初めてのことだらけですが、皆さんと協力しながら運営していきたい」と話しました。

水越中央区設立総会の様子

「御船の美術遺産」連続講座始まる

田中憲一氏の作品の講座を受講する参加者たち

4月14日、「御船の美術遺産」～田中憲一氏の作品を救うために～第1回の講座が街なかギャラリーで行われました。（一社）アートネットワーク熊本みふね（竹田津純代表理事）が主催した講座には、田中憲一氏の作品を学びに約40人が参加しました。講座では、熊本地震で被災した作品群が関係者たちのさまざまな働きかけによって、修復されていることや作品の被災具合によってランク分けし、「修復するか、そのまま残すか」という現状にあることを学びました。竹田津代表理事は「今後も、こういう講座を開き、御船の遺産を町民の人たちと話し合って、後世に残していきたい」と話しました。

上野保育園に手形鯉のぼり

4月18日、山口市大歳地区民生委員児童委員協議会（野々村壽代会長）から町立上野保育園（上村いつ子園長・32人）に子どもたちの手形鯉のぼりが贈呈されました。これは、同協議会が子どもたちを元気づけたいという思いから、昨年の11月、事前に園児たちの手形を取り、作製したものです。鯉のぼりを見た園児たちは、「僕の手形どれかな～？」と声を上げて、喜んでいました。御船町民生委員児童委員協議会の川口勝行会長は「いつまでも御船のことを思っていてくれてうれしいです」と大歳地区民児協への感謝の気持ちを語りました。

手形鯉のぼりは、テラスに飾られています